THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA HATSUKAICHI

広島廿日市ロータリークラブ 会報

2015年 9・10月号 No.398

世界へのプレゼントになろう

◆◆◆ 本年度会長方針 ◆◆◆

「わ(会員)の心を学び育てて共に活動をやり切ろう」

例会日／毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場／広島サンプラザ　TEL (082) 278-5000
会　長／佐伯　敬男　　幹事／吉野　篤敬

事務局
〒 738-0015 広島県廿日市市本町 5 番 1 号
廿日市市商工保健会館 4F
TEL（0829）31-5490　FAX（0829）31-5491
E-mail ／ office20@h-hrc.com
URL ／ http://www.h-hrc.com/

第 871 回　広島サンプラザ　2015年９月７日

会長時間

基本的教育と識字率向上月間について

会長　**佐伯　敬男**

基本的教育と識字率向上月間について話をしてみたいと思います。

まず識字率とは皆さんよく御存じのように文字の読み書きができ理解出来る能力持った人数の割合を指しています。このことについては特に日本の識字率は世界一を誇るといわれておりますがそうした中で今広がっているのが社会の格差問題ではないかといわれております。それは教育にも多大な影響を与えることになり、いわゆる非識字者が増えているといわれ、非識字者とは読み書きは出来るけれども新聞記事など理解できない場面があるなどして満足に使いこなすことができない存在と言われておりますがそのことを少しでも解消するために私たちに何ができるのか考えていきたいと思います。

又初めに戻りますが基本的教育を考えた時に東京学芸大学　谷　俊治名誉教授が教育について次のように言われています。

「日本の教育は〔知〕つまり知識ばかりが重視されてきた傾向があります。人間の基礎に当たる(情)すなわち相手への思いやりといった感情を育てる視点が、おろそかになっていたように思えてなりません。そうした反省から心の教育を重視する流れが教育現場では生まれているのですが、社会全体でみると、スマートフォンやインターネットといった（知）の肥大化の象徴のような媒体の普及により、顔と顔を合わせて語り合ういわば（情）と（意）を育む機会がむしろ減っている」と言われています。私も同感でしてこれからもしっかり対話をしながら、どのようにしたら良いのか又どのような思いがあるのか心を学びながら活動をしていきますのでよろしくお願いします。

誕生祝（森井会員）

奨学金授与

卓　話

識字率向上月間にあたって

青木　秀行　会員

第 872 回　広島サンプラザ　2015年９月14日

会長時間

副会長　**髙尾　昌二**

結婚祝

卓　話

会社の二代目継承について

川口　哲司　会員　　**永井　勝康**　会員

第873回　広島サンプラザ　2015年9月28日

会長時間

パスト会長　**森井　紀夫**

ロータリアンの３つの義務は御存知の通り。

①会費の納入　②例会の出席　③「ロータリーの友」の購読です。なかでも③の「ロータリーの友」を購入して、中身を読んでいますか？

「ロータリーの友」８月号・９月号は、連載記事が横組みに「ちょっと変わった？例会の食事エピソード①②」「ロータリーデイの特集」「ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識①②」掲載されています。

また、９月号には、2013年ロータリー世界平和フォーラム広島ホスト委員会　緑の遺産担当　錦織亮雄（広島東南ＲＣ）氏の報告「ロータリーは被爆樹木を通じて平和のメッセージを広げている」では、日本の各地から緑のたよりが届きましたと写真で紹介されています。

８月号の縦組みでは、2015年２月22日、RI2710地区GI（山口県下関市周辺のRC）IMでの講演要旨「出会い、感動、夢への挑戦！」と題して、下関市教育委員会教育長　波佐間　清　講師は「人との『出会い』によって、子どもは変害します。『感動』することによって子どもは成長します。さまざまな『体験』をすることによって、自分自身の『将来の夢』を、子どもたちは描き始めてくるのです。」と、講師が色々なところで聞いた話も紹介されています。

ロータリーでは、クラブが一つになるよう一同に会しての例会時の食事、卓話、「ロータリーの友」の購読など同じ情報・体験することにより、クラブが一つになると思います。どうでしょうか。

クラブの会報も以前は、週報でしたがいつの間にか、２ヶ月に１回となっています。

卓　話

環境と緑化

ハシモト園芸　代表取締役
橋本　　博　様

第874回　広島サンプラザ　2015年10月5日

会長時間

経済と地域社会発展月間

会長　**佐伯　敬男**

皆さん今日は会長の佐伯です。今日は経済と地域社会発展月間として一言話してみたいと思います。

皆さんよく御存じの広島東洋カープの松田　元オーナーは言われています「カープの役割は広島における平和推進と地域貢献の中心軸として、カープが存在感を発揮していきたい、それが、地域球団として歴史を刻んできた我々カープの誇りであり、使命でもあるのです」と述べられていますが理解できるような気がします。

本を開けば、経済とは人間の生活に必要な財貨、サービスを生産、分配、消費する活動、又、それらを通じて形成される社会関係とあります。そこで考えてみるときに、経済といっても地域社会といってもそこに人がおり活動し、集まり散る集合離散の原理でその活動が大きくなれば発展していくし小さくなれば衰退していく、しかし広島東洋カープのように粘り強く活動すれば又発展していくに違いないでしょう。このような状況はちょうどユリの球根に似ていると私は思います。何故かといいますと以前新聞記事を見たことがありますがユリの球根は、根でなく「鱗茎」いわゆる短い地下茎の周りに養分を蓄えたうろこ状の葉「鱗片」がたくさん重なり合ってできている、だから「百合」と書くのだそうです。

「百」は「多く」の意味ですから、鱗茎はイノシシなどの大好物だそうですが、食べられても鱗片が一枚でも残っていればあの見事な花を咲かせていく、強い生命力を持っているそうです。そのような意味では私たちも経済、地域社会活動の中でいろんな場面がありますが時にはユリの球根を思ってもらえたらと思います。又ユリは咲いている姿を見ればわかりますように「美しさ」も兼ね備えております。何か話が経済とは関係ないような話になりましたが月間に寄せて私の話とします。

新会員入会式
岩村省治会員

奨学金授与

卓　話

入院が続けられなくなる？
－政府の考えるこれからの医療制度改革－

渡邊　英晶　会員

第875回　広島サンプラザ　2015年10月19日

会長時間

副会長　高尾　省二

結婚祝

卓　話

会社の継承について

清水　理也　会員

私の会社の創業は1872年（明治５年）になります、まったく実感のない数字ですが私で５代目になります。もともとは宮島で商売を始めてロクロ加工メインで皿形状のものを作っていたそうです。ロクロといえば木工や陶芸で使われる言葉ですが木工は木を回転させ削る作業です。当時ロクロ加工で作っていた物はお盆やお皿、茶道具、なつめなどです、その他は碁盤や将棋盤、明治30年頃　銅版印刷もしていたと聞いています。その後、宮島から大野に移り木工業を続け当時は仕事が少ない中、戦時中は更に厳しい状況だったのですが車輪などを作っていたそうです。昭和21年頃会社は火事に遭い商売を続けることが難しい時期にありましたが、祖父は瀬戸内海の似島に行ってロクロ加工の指導もしていたそうです。その後地御前に移り木工所を続けました。私が生まれた時は自宅の隣に工場がありミニチュアサイズの五重の塔や鳥居など宮島向けのお土産工芸品を作っていました。工場が自宅の真隣にあったので祖父と父が働く様子は毎日のように見ていました。祖父が現役の頃、独自にお盆のロクロ機を作って作業していてその様子は今でもよく覚えています、バブル期に向けて工芸品は下火になり、それからは家具用のツマミを多く製造していました。昭和59年に廿日市市木材港に会社が移り現在に至っています。

私の父は会社を継いでくれとは一度も言ったことはありませんでしたが、子供の頃からそれを意識しており、将来は家業を継いでいるだろうと小学生頃の作文に書いていたようです。子供の頃から工作は得意なほうで、工作は色々な物を考えて作っていましたが、子供のころに本格的に技術を習うような事無かったように思います。大学を卒業して帰ってくると、当初は社外でまず修行してから会社に戻る予定でしたが、状況が許さずそのままウチの会社に入社しました。それから親子で働く事が始まりました。父と考え方の違いで衝突することがあったのは工場の整理をする時です、父は物を捨てたがらない質ですが、私は出来るだけ捨てたい質です。日本人の美徳として物を大事にするのが当たり前だとも思うのですが。論理的に考えると「機会費用」いう言葉がありまして、この件にあてはめていうと。例えば古い機械を将来使うからと置いておくとします、そうするとそこは何も使えないデッドスペースです、しかし古い機械を捨て作業場にすると利益が生まれるスペースに変わります。「機会費用」とはこの様な有益な結果を一番増大できるのはどちらか選ぶ判断のことをいいます。直ぐに結果が出る事ではないのでどちらが正しいのか言えないのが難しいところです。もちろん意見の違いでもっと大きな衝突が起きる場合もありますが一番はやはり会社なので、そういう時は出来るだけ俯瞰で考えるようにし、自分の意見だけに凝り固まらないように努めています。

私は32歳で結婚して33歳で社長になりました、父が66歳の時です。当初は肩書だけで当分はなにも変わらなかったように思いますが、父が病気になって入退院を繰り返した時期に徐々に社長として会社を回せるようになっていきました。やはり引き継いでも前任者がいると今までやって来たそのままのペースに陥りやすいのだと思いますし先代も長年やって来た会社を全部任せるのは難しいのだと思います。継がせた方からするとどうしても後継者の荒が見えるのだろうと思います、後継者としたら先代のサポートがあると助かる事もありますが、過度になると難しくなります。しかし家族の観点から考えると先代が完全にリタイヤしてしまうとハリが無くなってしまい、体調の衰えが加速してしまうかもしれません。ですから高齢になっても会社にいて適度の負荷があり長く健康でいてくれるのが一番だと思います。仕事としての観点、家族の観点からしても必ずしも後継者がやりやすい環境がベストではないのかもしれません。事業継承については沢山の要素があり何が正しいやり方か答えは一つではないので大変難しい

作業ですが、私がそうする時が来た時に少しでも良い状態・方法で譲れるように今後も努力していきたいと思っています。

第876回　広島サンプラザ　2015年10月26日

会長時間

グループ7　ガバナー補佐　**中村　哲朗**　様

卓　話

デザインは技術だけど、
それ以上に情熱が大切！

エディトリアルデザイナー　**生駒　優季**　様

クラブ協議会

活動報告

水保全活動　御手洗川清掃（10月4日）

10月４日朝８時から地域の人たち80名と共に草刈りとゴミ拾いをしました。天候も良く少し汗が出るぐらいで作業が早く進み１時間で終了しました。地域の人たちも喜んでおられたので良かったと思います。

インフォーマル・ミーティング

10月9日　ほの湯　楽々園

地区大会

10月25日
宇部市渡辺翁記念会館および文化会館